

## 6 木曽地域

### <地域の環境特性>

- ・ 西部の御嶽山と東部の木曽駒ヶ岳を主峰とする中央アルプスは、県立自然公園に指定されており、開田高原や木曽駒高原のほか、水木沢天然林、赤沢自然休養林、南木曽岳など、身近で豊かな自然と親しむことができます。
- ・ 標高差が大きく、かつ、変化に富んだ地形となっており、面積の 93%を森林が占めています。年間降水量は、南部では 2,000mm を上回り、御嶽山周辺では 3,000mm を超えるところもあります。
- ・ 旧中山道に沿って、福島関所跡や妻籠宿などの歴史的文化遺産が保存され、自然と調和した景観を形成しています。また、広域的な連携による景観づくりが進んでいます。
- ・ 木曽川源流の木曽地域は、下流域の水源地域として重要な役割を果たしています。また、水力によるクリーンなエネルギーも生み出されています。
- ・ 澄んだ大気と光害の少ない利点を生かし、学術研究機関による天体観測が行われています。



木曽馬の里（木曽町開田高原）から望む御嶽山

### <施策の展開>

#### **（１）水と緑のふるさと・木曽の豊かな環境の保全**

- ・ 水源地域として中京圏など木曽川下流域との交流を通じて、ともに森林と水源に対する理解を深め、「水と緑のふるさと」にふさわしい豊かな環境の保全に取り組みます。
- ・ 植樹、間伐及び下刈りの推進等による森林の整備や、県産材利用の促進による林業の活性化を進め、二酸化炭素の吸収、水源かん養など森林の公益的機能の増進を図ります。
- ・ アレチウリ等特定外来生物種の周知及び計画的な駆除に努めるとともに、川辺の遊歩道等の維持管理や植栽等の作業を地域住民との協働で行い、水辺の景観の維持に努めます。
- ・ 公共下水道等による集合処理に加え、集合処理方式が難しい地域においては、浄化槽の整備を推進するなど生活排水の適正処理を進めます。

## (2) 自然と共生する安らぎの山里づくり

- ・ 森林セラピー基地「赤沢自然休養林」や木曾川の源流「水木沢天然林」など、豊かな森林資源を生かした癒しと健康づくりの拠点として自然とふれあう環境の整備を推進します。
- ・ 住民、NPO、町村等との協働により、木曾川本支流などの地域資源を生かした自然体験や環境学習のプログラムの提供を進めます。
- ・ 農林業の担い手の育成に努めるとともに、地域の実情にあった総合的な野生鳥獣対策を進め、農地や森林の遊休地化による環境の悪化の防止に努めます。
- ・ 「水の始発駅」周辺のビオトープをはじめ、生物とのふれあいの場を整備するほか、ホタルやモリアオガエルなどの希少な生物が生息できる環境づくりを進めます。



水木沢天然林（平成の名水百選）での木曾川上下流交流サマーキャンプ



「未来世紀へつなぐ緑のバトン」植樹祭（王滝村）  
（長野県西部地震による崩壊地にミズナラを植樹）

## (3) 地域で取り組む「美しい木曾」の創造

- ・ 木曾地域全町村が制定した「ポイ捨て禁止条例」に基づき、地域が一体となって環境美化に取り組み、快適で住みやすいまちづくりを推進して「美しい木曾」を創ります。
- ・ ごみの分別と生ごみのたい肥化など地域全体で3R活動の推進を図り、廃棄物による環境への負荷の削減に努めます。



木曾地域全町村で「ポイ捨て禁止条例」施行